

津市屋内総合スポーツ施設基本設計について

1 経過

津市屋内総合スポーツ施設整備事業については、昨年9月に「津市屋内総合スポーツ施設基本計画」を策定し、本年から同計画に基づく設計業務（基本設計、実施設計）に着手しました。

設計業務については、公募型のプロポーザル方式により設計者を日建設計株式会社名古屋オフィスに決定しました。

基本設計においては、各方面の経験を有する方々に意見を求めるため、設計検討委員会を設置するとともに、津市体育協会等のスポーツ関係団体への説明と意見聴取を実施し、更にシンポジウム開催による市民の皆様への説明と意見聴取を行うなど、多方面での意見の反映に努め、本年3月に基本設計を取りまとめました。

2 津市屋内総合スポーツ施設基本設計概要（1 - 参考 2）

- (1) 建築概要
- (2) 基本コンセプト
- (3) 外観イメージ
- (4) 敷地平面配置図
- (5) 1階平面図
- (6) 2階平面図
- (7) 全体立面図(1)
- (8) 全体立面図(2)

3 今後の予定

基本設計の概要については、津市ホームページ等で市民の皆様にお示しします。

引き続き、実施設計を進め、建築等に係る詳細な設計や工事費の算定、管理運営の検討などを行い、平成25年の夏に設計の完了を予定しています。

津市屋内総合スポーツ施設基本設計概要

建築概要

〈敷地概要〉

- ・建物場所 : 三重県津市北河路町地内
- ・用途指定 : 市街化調整区域 (建ぺい率 70%、容積率 400%)
- ・敷地面積 : 9.8ha

〈建物概要〉

- ・構造 : 鉄筋コンクリート造 一部鉄骨・木造
- ・規模 : 地上2階
- ・基礎 : 杭基礎
- ・建築面積 : 14,200㎡
- ・延べ面積 : 20,000㎡
- ・各階面積 : 1階 14,200㎡、2階 5,800㎡
- ・最高高さ : 23.00m

〈主な外部仕上〉

- ・屋根 : ステンレス鋼板シーム溶接工法 (ステンレス素地)
- ・外壁 : 合板型枠コンクリート化粧打ち放しの上撥水剤塗布

〈主な施設〉

- ・1階 : メインアリーナ、サブアリーナ、武道場、屋内プール(25m) フィットネススタジオ、トレーニングルーム、キッズルーム ウエイトリフティング練習場、管理事務所、多目的室他
- ・2階 : 弓道場
- ・駐車場台数 : 約 1,850 台

〈電気設備〉

- ・6.6kV 高圧受電方式、屋外キュービクル方式、直流電源設備、発電設備 (非常用発電機、太陽光発電設備)、幹線動力設備、電灯・コンセント設備等
- ・電話設備、情報用配管、音響設備、インターホン設備、テレビ共同受信設備、監視カメラ設備 (場内監視、警備保安)・入退室管理用配管、
- ・自動火災報知設備、自動閉鎖設備、非常放送、非常照明・誘導灯

〈空調設備〉

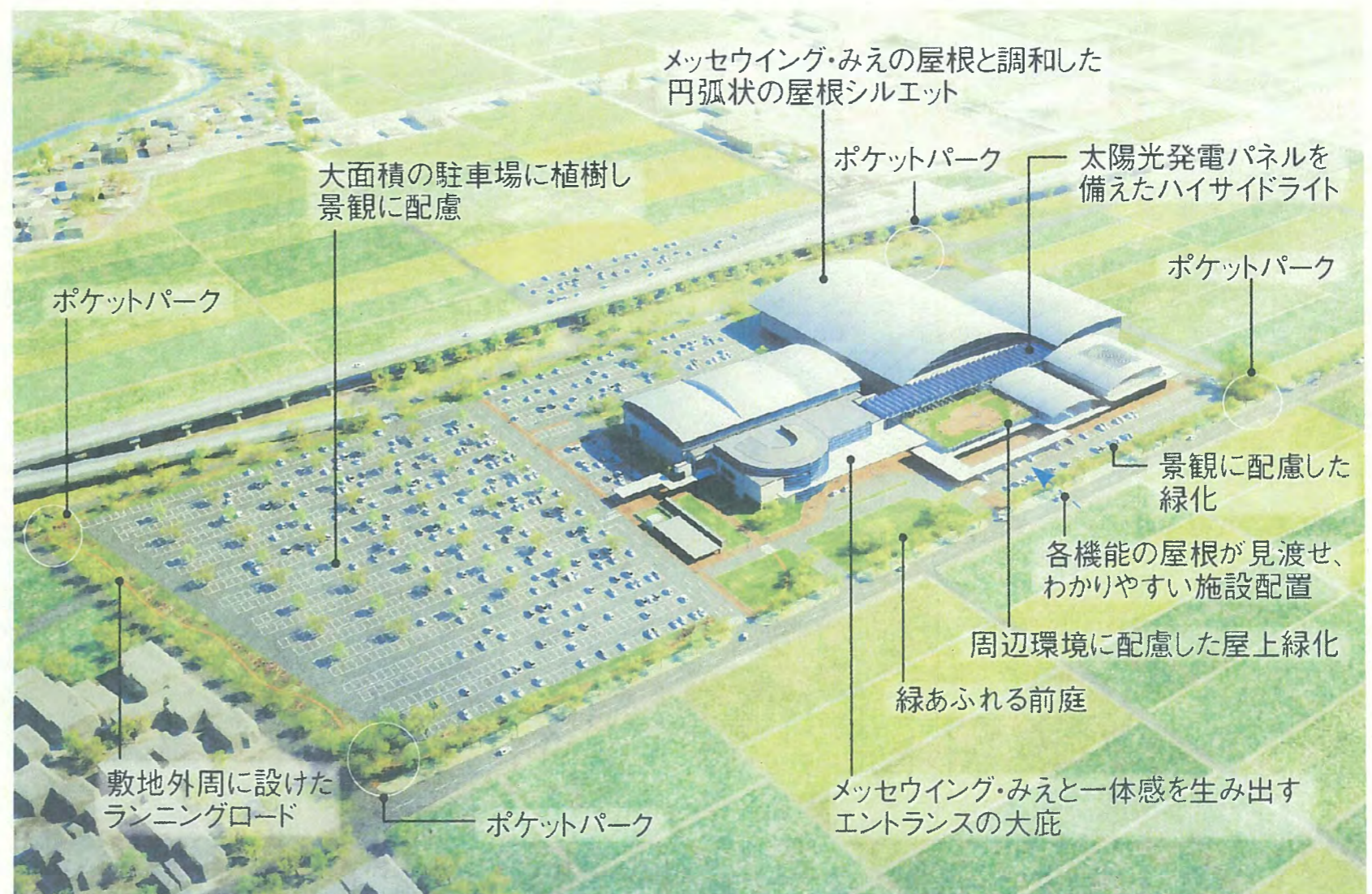
- ・都市ガス電気併用熱源方式、アリーナなど大空間は居住域空調+自然換気、換気・排煙設備、中央監視設備

〈衛生設備〉

- ・給水は3日分の備蓄量確保、給湯は太陽熱を活用、節水型衛生器具、都市ガス、消火設備

〈昇降機設備〉

- ・1基 (車椅子用、搬入用を兼ねる)



周辺景観や既存施設と調和した鳥瞰イメージ

基本コンセプト

メッセウイング・みえとあわせた弧を描く屋根の連なりで「津」を象徴する景観をつくります。

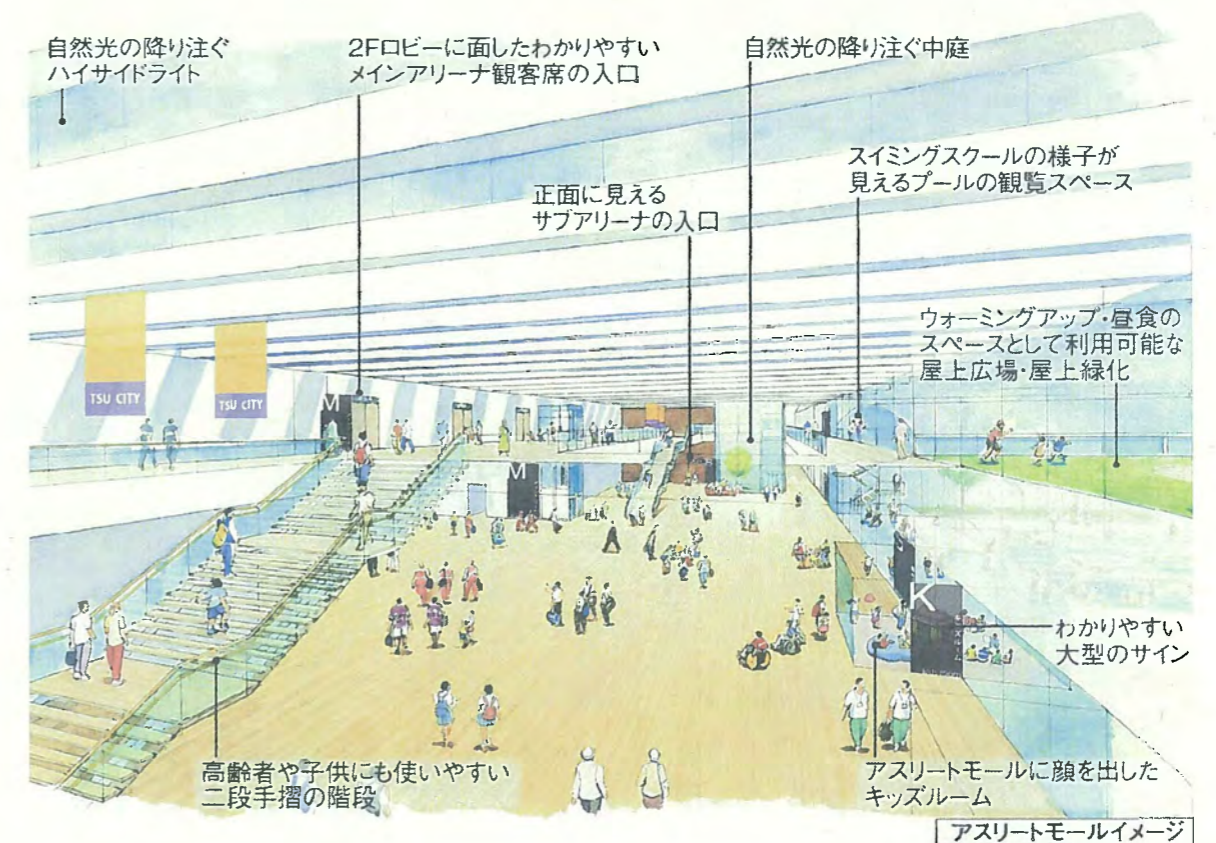
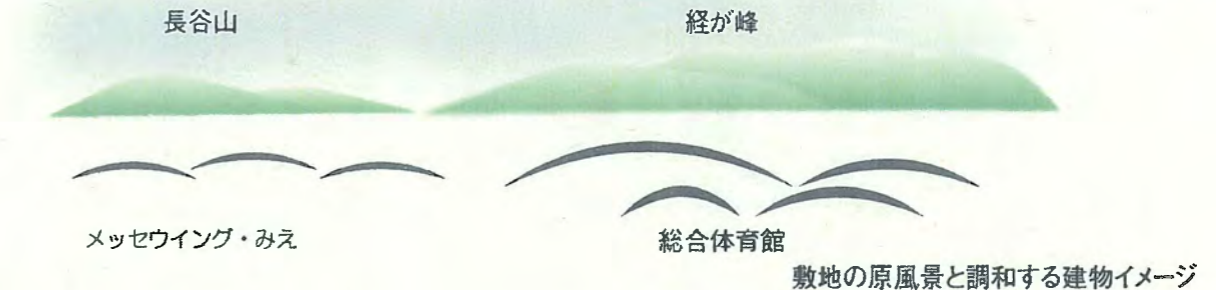
- 海をイメージさせるマリンプルーのガラスをまとったメッセウイング・みえと、屋内総合スポーツ施設の山々に見立てた屋根の連なりで、平坦な田畑が連なる周辺景観に存在感を与えます。これにより、「海から山まで」の自然にあふれた「津」を象徴し、ランドマークとなる外観をつくります。
- 空間ボリュームにあわせた様々な円弧状の屋根のシルエットは、敷地の西方に望む「長谷山」や「経が峰」のシルエットと呼応し、周辺景観に調和するものとしします。
- 屋内総合スポーツ施設の屋根は、同じ円弧状のメッセウイング・みえの屋根とも呼応し、より施設全体の一体感を高めます。

「アスリートモール」を中心とした一目で見渡せる使いやすい施設をつくります。

- 施設利用者と観客をわかりやすく迎え入れる庇で覆われたエントランスプラザを設けます。エントランスプラザは雨天時のウォーミングアップスペース等としても活用が可能です。
- 「海（メッセ）」と「山（体育館）」をつなぐ「まち」になぞらえた「アスリートモール」から、全ての施設が一目で見渡せ、それぞれの施設の入口が「アスリートモール」に面することからわかりやすく利用しやすい平面設計とします。
- 「アスリートモール」は、太陽光発電パネルを備えたハイサイドライトにより自然採光、自然通風を取り入れ、明るく快適な施設全体のシンボルとなる空間とします。

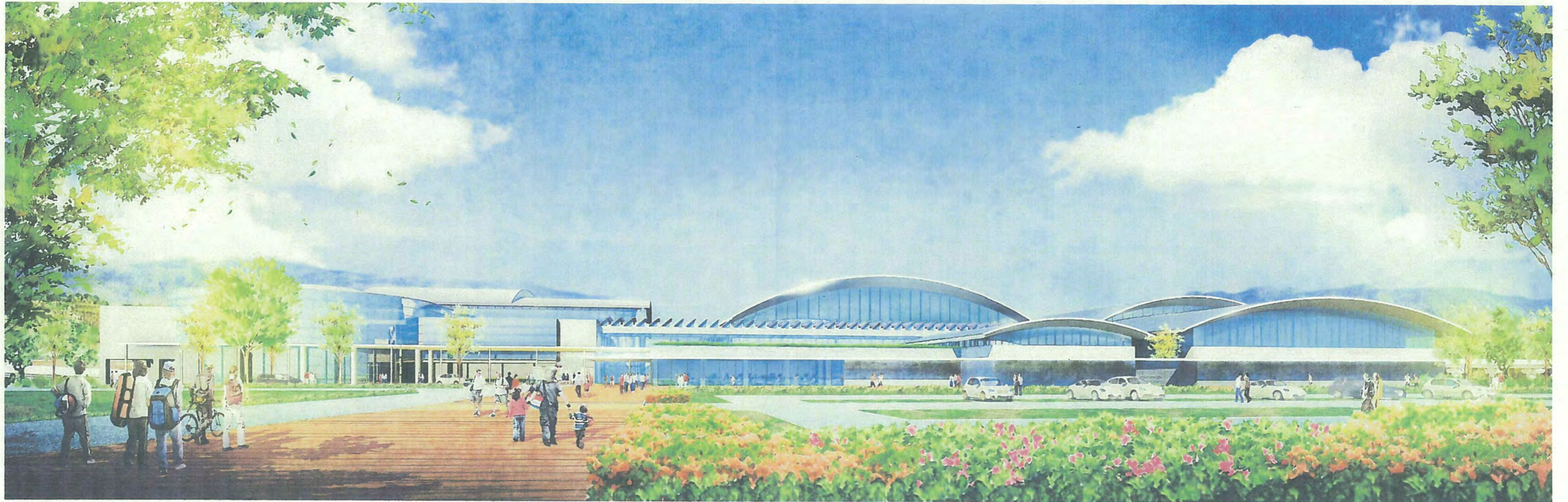
様々なライフステージによる市民スポーツを活性化させる施設をつくります。

- メインアリーナは多目的で多世代交流ができる機能性と全国レベルの大会開催にふさわしい風格を持たせ、サブアリーナは木材等も使用することでより親しみやすく、武道場はシンプルで端正なデザインとするなど、各施設の性格や利用方法にあわせてきめ細かく機能性やデザイン性に配慮した設計とします。
- それぞれの施設が「アスリートモール」から様子を見ることができるようすることで、様々なスポーツへの興味を高め、市民スポーツの活性化につなげます。
- メインアリーナでのイベント開催時でも、サブアリーナや武道場を通常利用できるように、ゆとりある「アスリートモール」の動線を一部仕切って使えるようにします。
- トレーニングルームやプールをエントランス近くの駐車場に近接した位置に配置することで、日常的に市民が利用しやすいようにします。
- 施設内はユニバーサルデザイン化をはかり、高齢者の利用や障がい者スポーツの利用も容易に行えるようにします。



アスリートモールイメージ

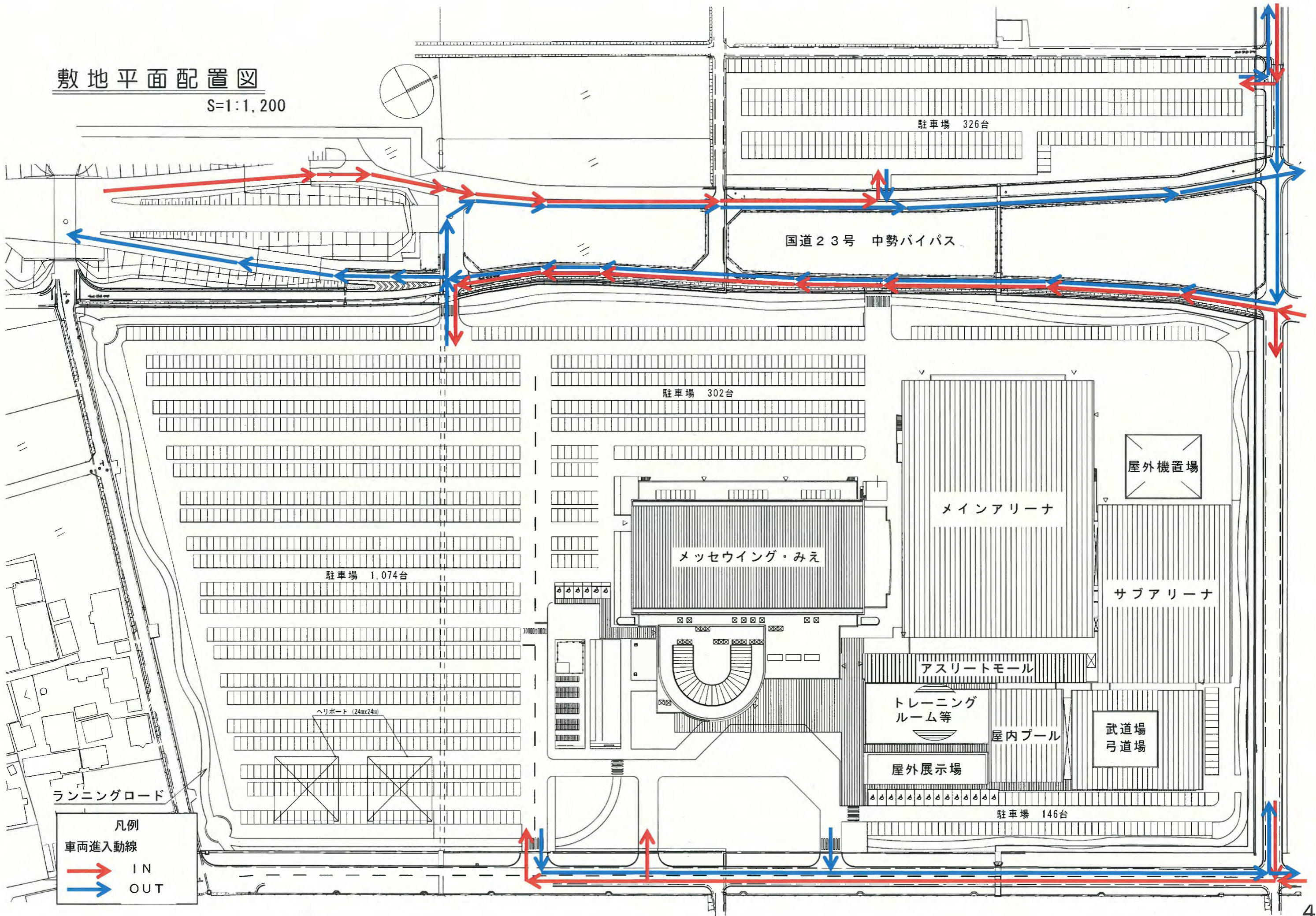
外観イメージ



屋内スポーツ施設アプローチからの景観

敷地平面配置図

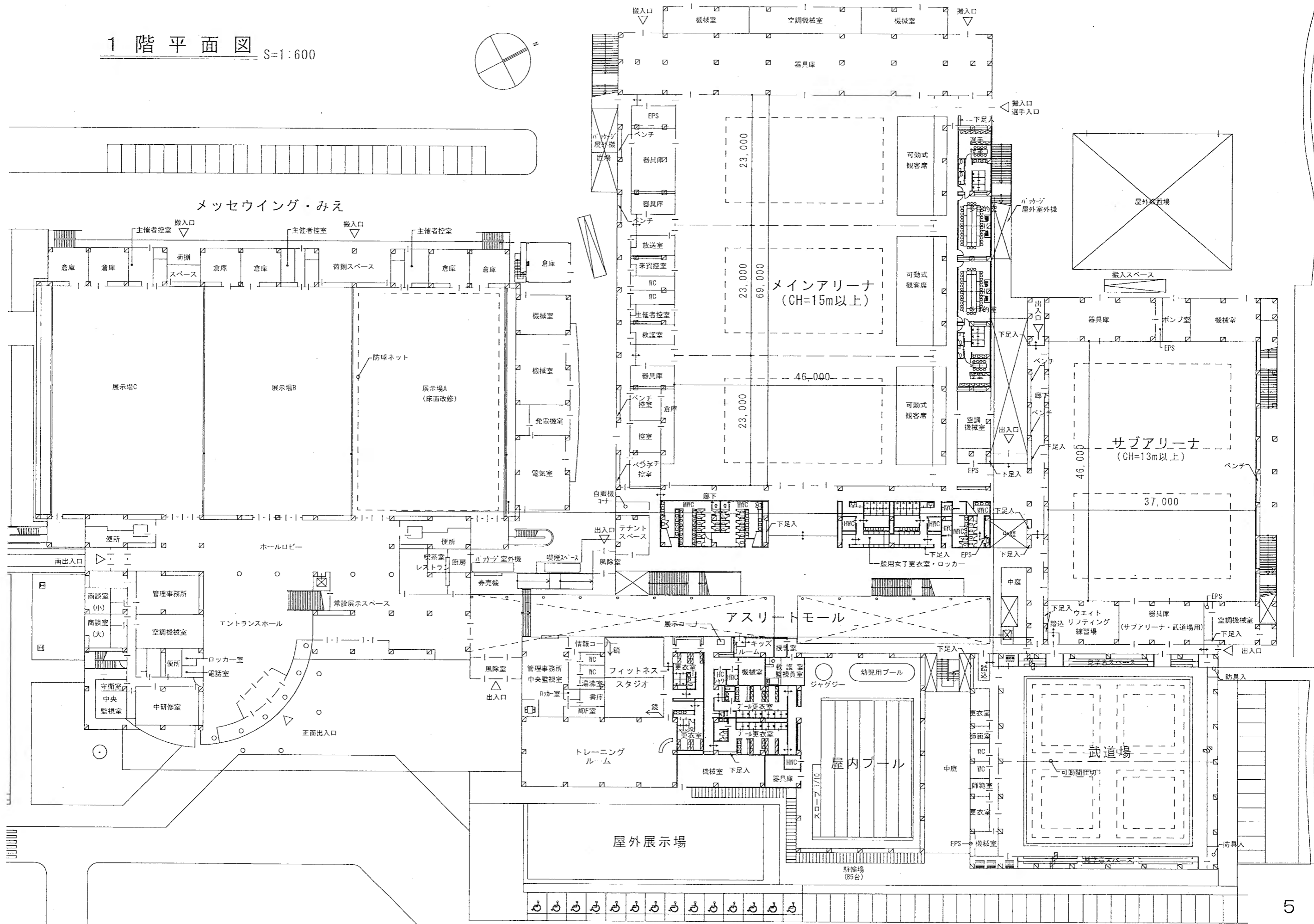
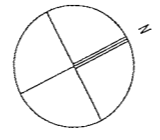
S=1:1,200



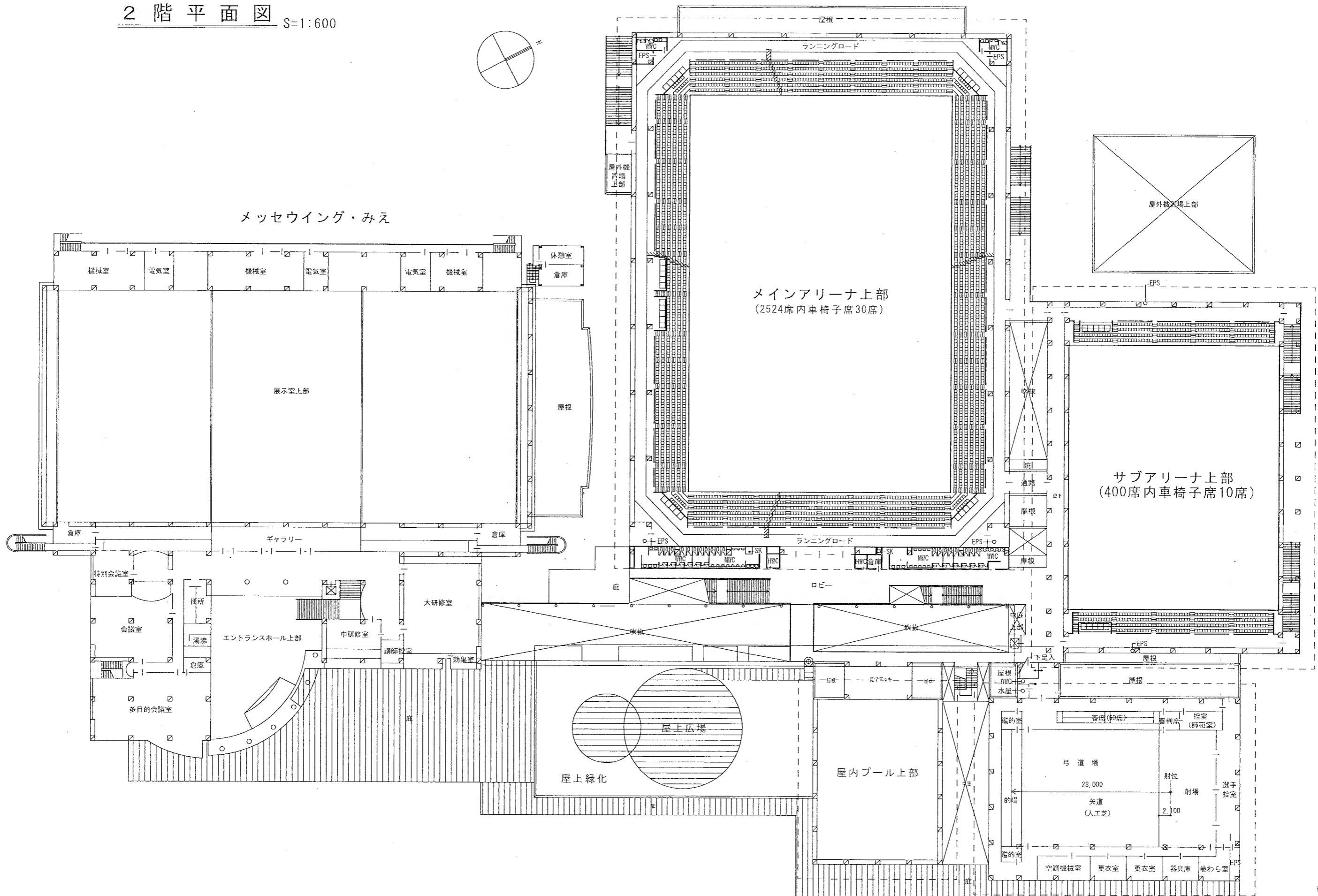
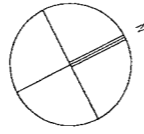
凡例
車両進入動線

	IN
	OUT

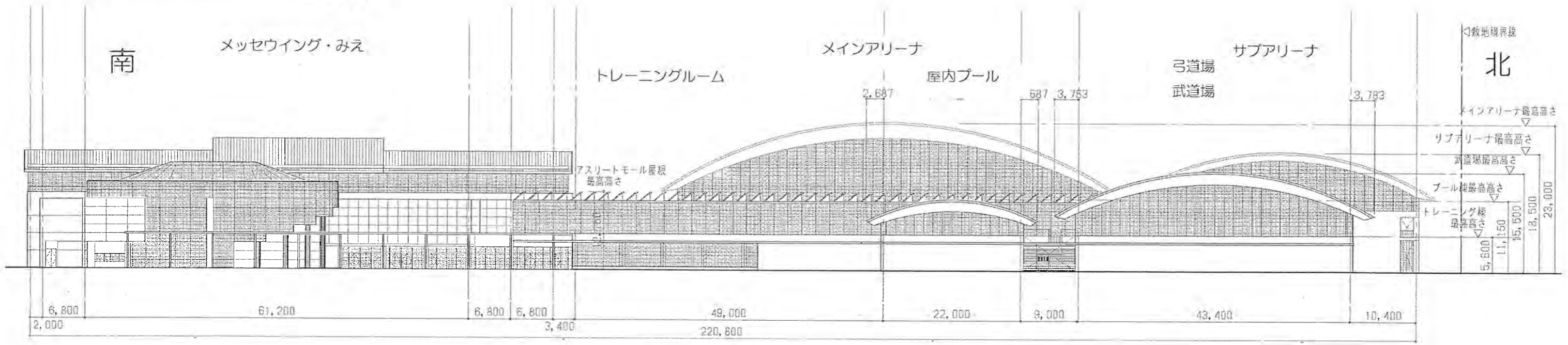
1階平面図 S=1:600



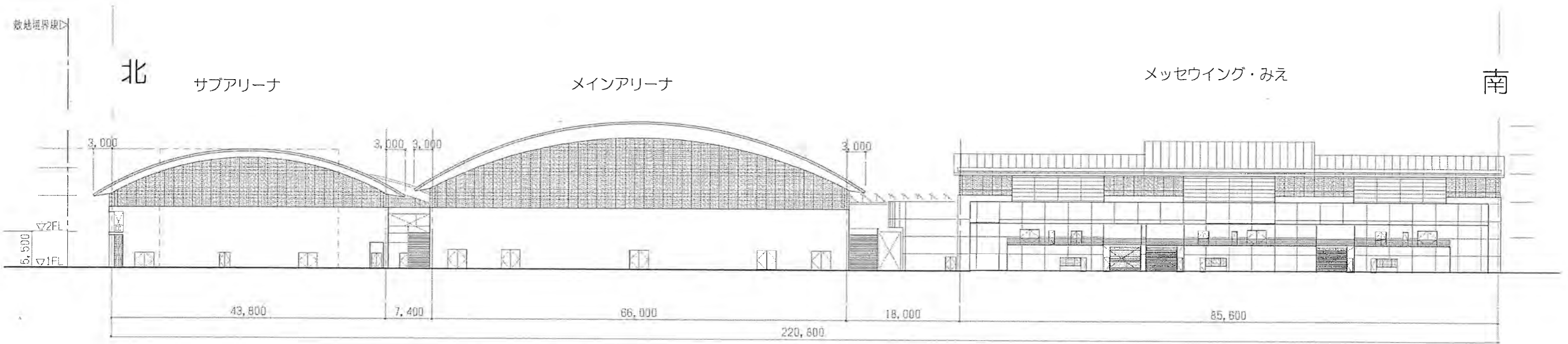
2階平面図 S=1:600



全体立面図 (1) S=1:600

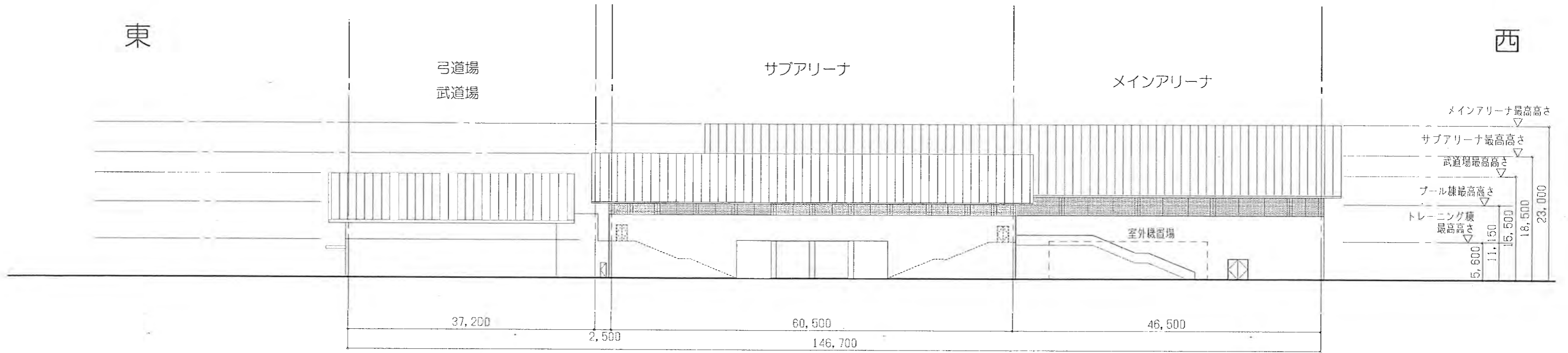


東立面図

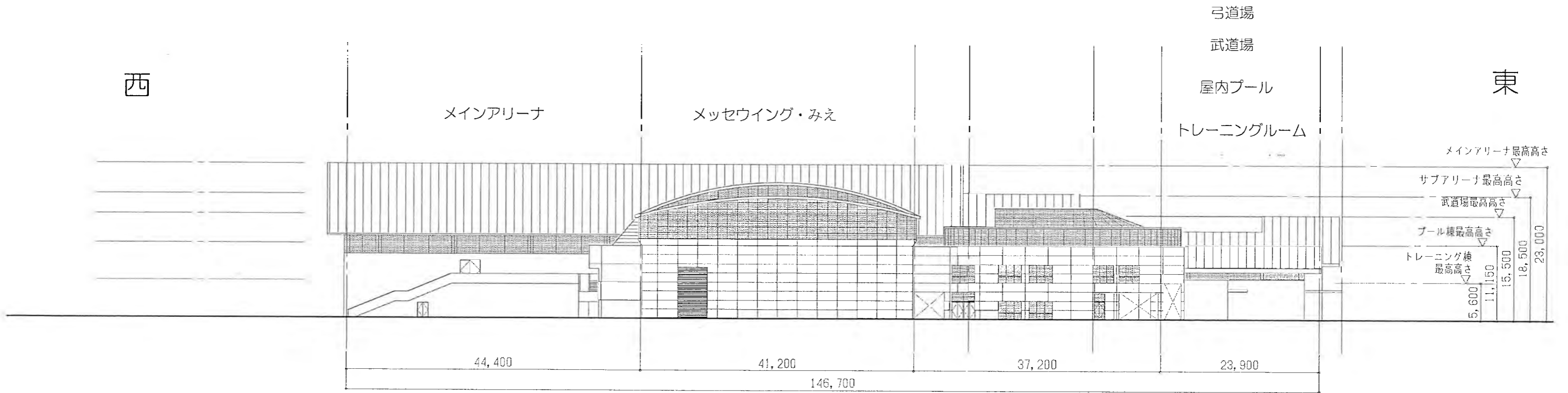


西立面図

全体立面図 (2) S=1:600



北立面図



南立面図